

『答えのない時代』をいかに生き抜くか——。読者と共に考え、行動する雑誌

財界

ZAIKAI
a Japanese business biweekly

新年ワイド座談会
2024年の景気、株価、
国際情勢をにらんで
経済リーダー41人が白熱論議

新春特別号
2024 1/17

◎インタビュー
日本総合研究所会長
寺島 実郎
連合会長
芳野 友子

前・新型コロナウイルス
感染症対策分科会会長
尾身 茂

「緊迫の年」2024年をどう生き抜くか——

自発・自治・自覚を
行動規範に

兼社長 会長 御手洗富士夫の

「人をつくり、会社をつくる！」

本誌主筆 村田 博文



表紙の人
アサヒグループ
ホールディングス会長
小路 明善
撮影 齊田 勲

ミスSDGsジャパン2023年全国大会グランプリ、準グランプリを受賞。

女性が幸せになれば男性も幸せになり、地球全体の幸福度が上がる。

東京皮膚科・形成外科 総院長

池田 欣生

ミスSDGsジャパン
2023年全国大会グランプリ

朝日 紋伽

準グランプリ

柴田 るみ枝

今回の対談ゲストは、第3回ミスSDGsジャパン2023年全国大会グランプリに輝いた静岡県代表の朝日紋伽さんと準グランプリ福岡県代表の柴田るみ枝さんです。今年度は審査員長にアンミカさんと審査員に俳優の西岡徳馬さんをお招きして、新たな視点で審査することになりました。グランプリ、準グランプリに輝いた朝日さんと柴田さんに受賞の喜びを語ってもらいます。



池田運営事務局長からグランプリを受賞された朝日紋伽さん。

あさひ・あやか

静岡県富士市生まれ。静岡県富士市在住。文化服装学院卒業。デザインや経営学を学び、アパレル業界に就職。その後大手製紙会社に就職。韓国人である両親を持ち、幼い頃から国際交流活動に参加してきました。父親の病気をきっかけに、家業を手伝いながら自営業で様々なSDGs活動に積極的に参加しています。趣味はゴルフで、ゴルフを通じてSDGs活動を推奨する活動もしています。

グランプリ受賞を機に一層輝ける女性リーダーを目指します。

池田 今回のゲストは、11月27日ランドマークホール（横浜市）で行われ、私が運営事務局長として携わっている「ミスSDGsジャパン2023日本大会」でグランプリに輝いた朝日紋伽さんと、準グランプリの一人、柴田るみ枝さんです。このコンテストは「女性が幸せになれば、男性も幸せになり、地球全体



アンミカ審査員長から祝福された朝日紋伽さん。

の幸福度が上がる」をテーマにして
います。

人類が地球で暮らし続けていくた
めには「2030年までに達成すべ
き目標であるSDGs(持続可能な開
発目標)のより早い達成を目指す」
ことが必要。そのためには女性がS
DGsを知り、共感し、発信するこ
とが大切だと考えます。

また、何歳になっても輝き続け
たい女性たちをプロデュース、応援す
ることを目的にコンテストを開催し
ています。それでは朝日さん、グラ

ランプリ受賞の喜びとコンテストの感
想をお願いします。

朝日 グランプリに選んでいただ
いた朝日紋伽です。静岡大会から日
本大会まであつという間でした。コ
ンテスト挑戦は初めてでしたが、進
んでいくにつれて辛いこと、不安や
緊張、自分に自信がなくなることも
ありました。でも逆に自信がつくこ
ともあつて、私にはこんな一面もあ
るんだ、周り比べてこうなんだと
いろいろな部分に気づくことができ
ました。自分らしいステージにでき
るよう練習を重ね、
グランプリをいた
だくことができま
した。

大会当日、ステ
ージから見えた、
応援してくれてい
る方々の笑顔、声
援は一生忘れませ
ん。

そして感謝を忘
れず、これからも
より一層輝ける女
性リーダーを目指
して頑張ります。

池田 改めてですが、朝日さん自
己紹介をお願いします。

朝日 両親が韓国人で、私は日本
で生まれ育ったのですが、東京の大
学を卒業後、静岡に戻って製紙会社
のOLをやっていました。父の病氣
をきっかけに実家の不動産関係など
の仕事を手伝いながら、自営業でS
DGs活動などもしています。家業
は兄が社長で、姉と兄がいる3人兄
弟の末っ子です。

池田 一番下は可愛がられますね。

朝日 甘やかされています(笑)

池田 お仕事はどんなことを?

朝日 私は韓国語の講師などをや
っています。韓国ブームで韓国語を
学びたいという方がいらっしゃるの
で。若い女の子、中高生が多いです
ね。

**人前に出るのが苦手な自分を変えたい
と思いコンテストに出場しました。**

池田 準グランプリの柴田さんも
お願いします。

柴田 私は福岡大会から日本大会
に進みましたが、友人の勧めで私も
初めてのコンテスト出場。出た人に
しか見えない世界があると聞き、ち

ャレンジすることで自信がなく、人
前に出るのも苦手な自分を変えたい
という思いがありました。

いろいろな先生方、OGの方々と
出会って、自分も変わることができ
ました。私は結婚して子供が2人い
ますが:

池田 お子さんは今おいくつ?

柴田 上が6歳の女の子、下が4
歳の男の子です。コンテストと家庭・
育児との両立は結構大変でしたが、
それでも忙しいというのを理由に諦
めたくなくて、そうした姿を子供に
も見せたいという思いもあり、やれ
るだけのパフォーマンスをしようと
思いました。

池田 お仕事はネイルサロンの経
営ですか。

柴田 はい。ネイリストは20年や
っております。

池田 このコンテストは今回で3
回目となり、だいぶ洗練されてきま
した。今回審査員長をお願いしたア
ンミカさんは、容姿だけではなく、
女性としてきちんとされているかど
うかというところを中心にご覧にな
っていました。アンミカさんご自
身もステージで選ばれる側について、

様々な経験があったのでしよう。東京大会では僕らが選んでいましたが、女性は女性に選んでいただきたいという思いもあって、日本大会では僕と俳優の西岡徳馬さん以外の審査員は全員女性でした。

余談ですが、芸能界で私が知っているなかで、西岡さんは人としてすごいと思います。77歳で現役。一般では60歳から65歳で引退、テレビや演劇でも70歳になって続けられるというのは若い人の感性を持っているということ。僕とも仲良くしてくれそうですし、偉ぶらずにずっとやってこられて、みんなに愛されるキャラクター。そういうところや、実際に西岡さんの舞台を見に行く勉強になりますね。

アンミカさんが審査委員長、西岡徳馬さんを審査員に招き入れることで新たな展開になりました。

池田 その西岡さんからは「西岡徳馬賞」もありましたが、アンミカさんが審査委員長になったことで新しい方向性も見えました。女性が女性を選ぶ際はルックスだけでなく、生き様とか、仕事で自立しているとか、メッセージ性があるとか、どん

なことをやっているとかを判断される。アンミカさんもそういう点をきちんとチェックしていました。

たとえばSDGsは未来を考えると、生きていく上で絶対必要なこと。ただ、その言葉を聞いたことはあっても、どういうことかわかりにくくないですか。

朝日 柴田 はい。

池田 SDGsは具体的に行動に移せることを知らず、イメージがふわっとしている。コンテストでは、それぞれの分野で自分が優勝したらこういう未来をつくりたいとPRしていただきました。改めてご紹介をお願いします。

朝日 私はもともと人や国の不平等をなくしたいということを自分のテーマにしていました。幼いころから両親と一緒にSDGs活動とかか外国人の雇用や海外からの受け入れなど国際交流に取り組んできました。これからもこうした活動をもっと大きくして自分の力でやっていきたいと思っています。

池田 受け入れの取り組みとは、例えばどういうものがありますか。

朝日 両親の出身地・韓国の若い

子たちに教育を受けさせて、日本の会社に就職できるようにしてという活動です。今後は、もう少し幅広く考えながらやっていきたいです。

対象の国を韓国以外にも広げたり、逆に海外に日本の素晴らしさを発信したりしていけたらと思っています。

柴田 私は福祉

ネイリストの資格を持っているのですが…

池田 福祉ネイリストとはどんなお仕事ですか。

柴田 障がいを持った方やお年を召した方に対してネイルケアするものです。ネイルはマニキュアだけでなくハンドトリートメントという手のマッサージ、施術もできるので、指先から健康になっていただくことで心から健康になっていただきたいという思いがあります。



グランプリの静岡県代表・朝日紋伽さん（中）、準グランプリの北海道代表・高橋奈美さん（左）、同じく準グランプリ福岡県代表・柴田み枝さん（右）

ネイルは認知症の予防や緩和にも繋がるというエビデンスも出ていますので多くの方に広めていきたいです。

指先から健康、多くの人に福祉ネイルケアの普及を目指しています。

池田 ネイルは自分で目視できるところがいいと言いますね

柴田 まさにその通りで、顔は鏡を通してしか見えませんが、指先はいくらでも近づけて見ることもできますし、人からも目に付く場所なので指先を彩ること、触られること



西岡徳馬さん、アンミカさん、池田総院長と全国各地かコンテストに参加したファイナリストの人々。

によって昔の記憶がよみがえったりだとか、コミュニケーションを取れるという意味で脳が活性化するということも学会で発表されています。今後は福祉ネイリストの育成にも力を入れていきたいと思っています。

池田 福祉ネイリストは多いので

すか。

柴田 福祉ネイリスト協会という団体はありますが、福岡ではまだ数が少ないので、市内にスクールを立ち上げたいという思いはあります。

池田 朝日さんのお話にもあった海外からの留学や、移住する人を僕は尊敬しているんです。

特に日本から海外に移住する人たちは総合的にコミュニケーション能力が長けている人が多いと思います。柴田さんのお話の福祉のコミュニケーションもそうですが、AI時代になってから逆に人間らしさ、コミュニケーション能力が大事なところになっている気がするので、お二人のお仕事はいと思いますね。朝日さん、静岡の人はどういった人が多いですか。

朝日 静岡はコミュニケーション能力が高い人が多いと思います。

池田 柴田さん、福岡の人はどうですか。

柴田 いろいろな人が集まっているところですね。穏やかな人が多い気はしますが、西寄りになると気性が激しくなるかもしれません(笑)。

池田 コンテストは3年やってきて来年から東京でも少し規模を大きくしてやりたいと思っています。お二人のように活躍している人を応援していきたいですし、大会を盛り上げたいので、多くの人に足を運んでいただけたらうれしいですね。最後に改めて今回のコンテストを振り返ってください。

朝日 本当にこのコンテストに挑戦して、地方から日本大会まで来ましたが、出てみてすごく自分に自信ができました。貴重な経験で誰もができる経験ではないですし、自分のこれからのステップにも必ずつながると思うので、ぜひ皆さんも挑戦していただきたいなと思います。

柴田 私も紋伽さんと同じでなかなかできる経験ではないと思います。コンテストに出るのはすごく勇気がいることだし、自分との闘いで大変な思いもします。

それでも大会に出たからこそ見える景色があり、出会う人がいて、

自分のステージアップにつながると思います。

池田 アンミカさんも「その勇気に拍手」と言っていました。女性同士でわかるのでしょね。その勇気はすごいと思います。今日はありがとうございました。

MrsSDGs JAPAN日本大会 事務局
株式会社フューチャーフォース

運営事務局長 池田欣生

mail info@future-force.jp

東京皮膚科・形成外科銀座院

〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8 ラウンドクロス銀座 3F

TEL 03-3545-8000 HP <https://www.251901.net/>